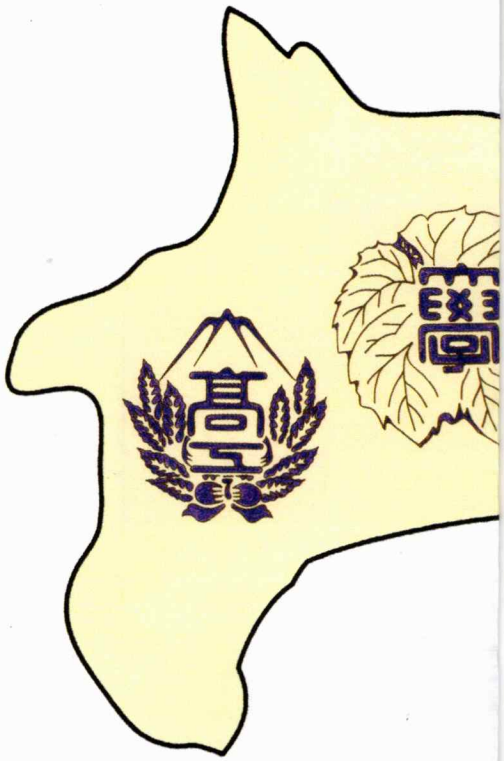
武田節　　作詞：米山愛紫　作曲：明本京静



1、　甲斐の山々　陽に映えて
　　われ出陣に憂いなし
　　おのおの馬は飼いたるや
　　妻子に恙　あらざるや　あらざるや

2、　祖霊ます　この山河
　　敵に踏ませてなるものか
　　人は石垣　人は城
　　情けは味方　仇は敵　仇は敵

＜詩吟＞

疾(とき)　如(こと)　風(かぜのごとく)
徐(しずか)　如(なること)　林(はやしのごとし)
侵(しんりゃく)　掠(すること)　如火(ひのごとく)
不(うごか)　動(ざること)　如山(やまのごとし)

逍遙歌第二

一、

3、　つつじヶ崎の　月さやか
　　うたげを尽せ　明日よりは
　　おのおの京をめざしつつ
　　雲と興れや　武田武士　武田武士

二、

桑原 信玄

特別講演

桑原 哲夫　様

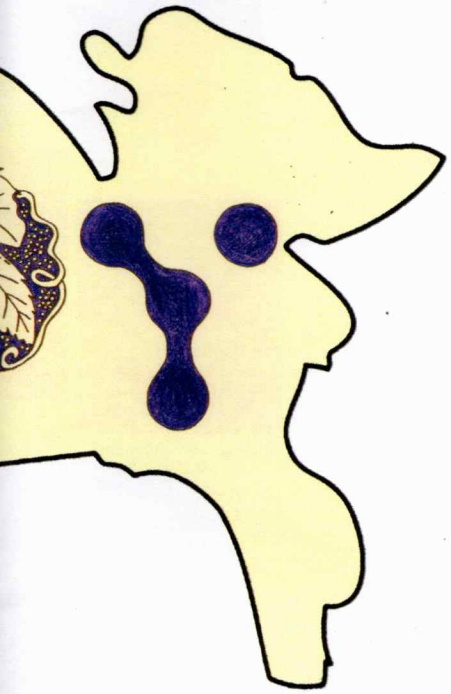
三、

山梨大学

大学院総合研究部
工学域物質科学系
（応用科学）教授

四、

五、



作詞作曲： 黒住薫潔 （土木/昭和２０年卒）

嗚呼青春は花の夢
春古城の逍遙を
楽しむ人も乙女子も
浮寝に結ぶ夢の夢

秋風白く立つ頃は
甲斐の都に霧深く
枯葉綾なす旅空に
今日も嘆きの歌を聞く

旅に疲れし其の時は
浮身を野路に横たへて
悠ひを高き暗空の
星の光につなぐなり

山峡遠き晩鐘に
水の鏡を行く雲に
眞亭の酒よ我が友よ
湖畔の旅情誰か知る

秋風既に幾星霜
行人正に男兒なり
至純の情をたぎらせて
富士に流るゝ雲を見よ

逍遙歌第一　　作詞作曲： 黒住薫潔 （土木/昭和２０年卒）

一、
皎々古都に月冴えて
盛衰千古照らす時
愛宕の山をさまよへば
春の朧（おぼろ）の夢に似て
緑に埋る里戀し

二、
塒(ねぐら)に急ぐ雁音と
武田の杜をさまよへば
武運つたなき名將を
慕ひて落ちる紅葉に
男兒熱血涙あり

三、
噫！(ああ)人の世は汚れしを
行人我等若くして
共に生き拔く友若し
斧鉞(ふえつ)入らざる野を拓き
名をこそ惜しめ健男兒

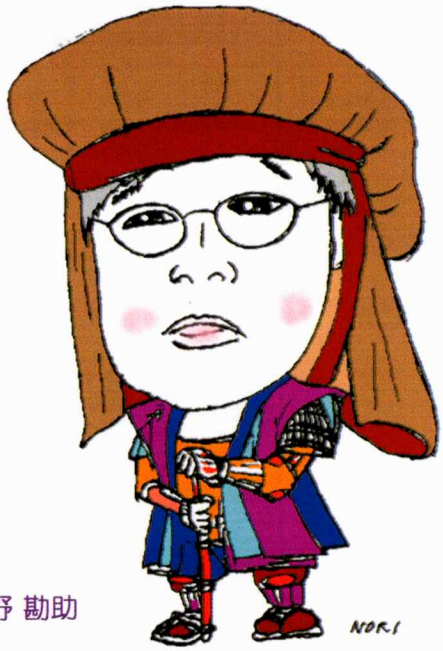
四、
歴史はめぐる幾度ぞ
古城の松に風こもる
果てぬ亂舞の音絶へて
東雲赤く流るれば
嗚呼新雪の富士清し
嗚呼新雪の富士清し

第53回山梨工業会

神奈川支部 総会

ワークピア横浜

令和７年（2025年）
６月21日（土）



有野 勘助